

平成21年度

峡東教育事務所 学校教育担当情報誌

はぐくみ

平成22年2月22日発行 (NO. 11)

来年度の教育課程編成に向けて ～平成22年度山梨県学校教育指導重点～

2月16日(火)に総合教育センターにおいて、「平成22年度山梨県学校教育指導重点」の説明会が開催されました。各校においては、既に来年度の教育課程編成に取り組まれているとは思いますが、今一度、県の指導重点を読み合わせするなどして、より充実した教育課程の編成が行われますようお願い致します。

冊子としては各校に4冊、ダイジェスト版は全職員に配布されています。「やまなしの教育振興プラン」「平成22年度 教育課程指導資料」とともに、活用してください。



小・中学校指導重点

- 1 知・徳・体の調和を重視し、「生きる力」をはぐくむ適切な教育課程の編成と実施に努める。
- 2 生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、確かな学力をはぐくむ指導と評価に努める。
- 3 集団の一員としてよりよい生活や人間関係を育成し、自己の生き方についての考えを深め、将来の生き方の基盤を培う生徒指導に努める。
※中学校は 集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を育成し、人間としての生き方についての自覚を深め、よりよく生きようとする態度を育成する生徒指導に努める。
- 4 体育・スポーツ及び健康・安全に関する基礎・基本となる資質や能力の育成に努める。
- 5 安全・安心を基盤とし、家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりの推進に努める。

小中学校特別支援学級及び通級指導教室指導重点

- 1 児童生徒の実態を的確に把握し、個に応じ、「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成と実施に努める。
- 2 障害のある児童生徒が生き生きと学習できる環境づくりに努める。

★第2回峡東地区学校評価研究推進協議会が行われました★



～推進協議会の様子～

2月9日（火）に山梨市民会館において標記の会が開催されました。この協議会は、推進校（菱山小、一宮中）を拠点に、主として学校関係者評価の在り方について協議することを目的にしたもので、今回はまとめの協議会として開催しました。校長ヒヤリングなどの他の出張もあるなか、校長先生や教頭生にご出席いただきました。

（駐車場が混雑してご迷惑をおかけしました。）

さて、管内の学校評価状況調査によると、「自己評価」は52校すべてにおいて取り組まれており、評価項目数も以前より精選されてきています。また、自己評価結果を保護者や学校設置者に報告している学校は52校中、47校となっております。学校関係者評価については、現在26校が導入していると回答しています。

推進校の菱山小学校及び一宮中学校からは、

- ・ 評価の指標を明らかにし評価項目を十分にしばった中での評価を学校関係者委員に提示し、取組を高く評価していただくことができたこと
- ・ 教職員一人一人が改善を進めていく当事者となり、学校を改善していこうとする意識がもてたこと

などの成果が発表されました。また、指導助言者の宇野五千雄先生、雨宮 亘先生からは、推進校のこれまでの研究を高く評価した上で、

- ・ 今の学校をどうすべきか、学校評価が何のために行われるかについて再考してみること
- ・ 自己評価こそ一番大切であること、それに外部の力（評価）を借りて、見えない部分を改善していくこと
- ・ 報告の体裁にとらわれないことや評価の結果を数値化することには限界があること
- ・ 本格的な評価のためには、人的・予算的なものをもきちんとしていくべきいであること

など、これからの取組の方向性を示す貴重なご助言をいただきました。

学校関係者評価導入へむけては、今回の推進校の研究成果に学ぶことはもちろんですが、学校関係者評価と保護者等アンケートとの混同や学校評議員との関連性など、再確認していくべき内容もあるかと思えます。平成20年1月発行の「学校評価ガイドライン」等（文部科学省のHPにも掲載）を参考に、まずは管理職の先生方の基礎学習としてご一読いただきますよう、お願いいたします。

終わりになりましたが、推進校の菱山小学校と一宮中学校の先生方、貴重な研究成果をご発表いただきたいへんありがとうございました。今年1年間の真摯な研究に心から感謝を申し上げます。